

結果

第37回

神奈川県高等学校アンデパンダン大会

第17回

神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門

日 時 2002年11月10日(日)

会 場 神奈川県立座間高等学校

【放送アンデパンダン大会】

主催：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会

主管：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会

【総合文化祭 放送部門】

主催：神奈川県高等学校文化連盟

神奈川県高等学校視聴覚教育研究会

神奈川県教育委員会

主管：神奈川県高等学校文化連盟放送・情報専門部会

(神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会)

後援：  Fm yokohama 84.7

朝日新聞社横浜支局・神奈川新聞社  
有隣堂

## 目 次

1	日 程	1
2	会場案内	2
3	役員校・委員校業務分担	4
4	放送アンデパンダン大会実施要領	5
5	放送アンデパンダン大会役員一覧	10
6	放送アンデパンダン大会審査の観点	11
7	放送アンデパンダン大会審査員一覧	14
8	放送アンデパンダン大会エントリー一覧	15
9	県総文祭放送部門実施要領	18
10	県総文祭放送部門役員一覧	23
11	県総文祭放送部門審査の観点	23
12	県総文祭放送部門審査員一覧	26
13	県総文祭放送部門エントリー一覧	26
14	神奈川県高等学校総合文化祭の紹介	28
15	出場校別参加本数一覧	29
16	諸注意	

## 日 程

9 : 0 0 ~ 9 : 4 0	総合受付	: 生徒昇降口
9 : 2 0 ~ 9 : 4 0	作品提出	: 各会場で受付します
1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0	審 査	
1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0	昼 食	
1 3 : 0 0 ~	審 査	: 開始時間は開場で確認する
1 6 : 0 0 ~	閉 会 式	: 体育館

## 閉 会 式

◇閉会式 16 : 0 0 (予定)

司会 星 久美子さん  
(県立鶴見高等学校)

1. 開会のことば

アンデパンダン大会実行副委員長

県立相模田名高等学校

吉田 美里 さん

2. 放送アンデパンダン大会実行委員長あいさつ

県立座間高等学校

大貫 祝和 君

3. 神奈川県高等学校視聴覚教育研究会会長あいさつ

県立厚木南高等学校長

五十嵐 勲 先生

4. 神奈川県総合文化祭放送部門講評

ビデオメッセージ部門 TVKテレビ(特別審査員)

業務本部 理事

内田 慎一 殿

オーディオピクチャー部門 FMヨコハマ(特別審査員)

殿

5. 審査結果発表・表彰

放送アンデパンダン大会実行委員長

県立座間高等学校

大貫 祝和 君

総合文化祭放送部門運営委員長

県立大師高等学校

小林 正英 先生

6. 閉会のことば

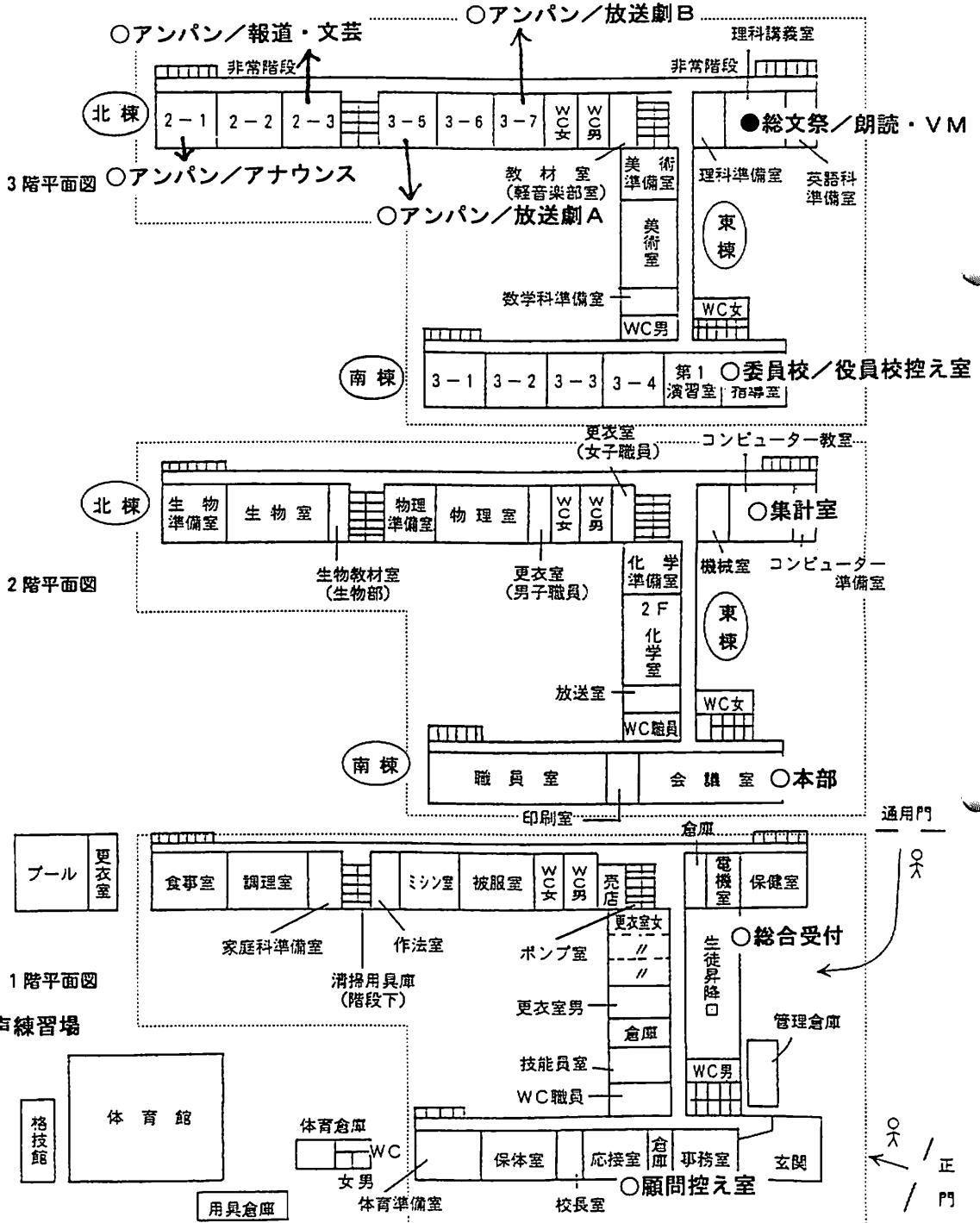
アンデパンダン大会実行副委員長

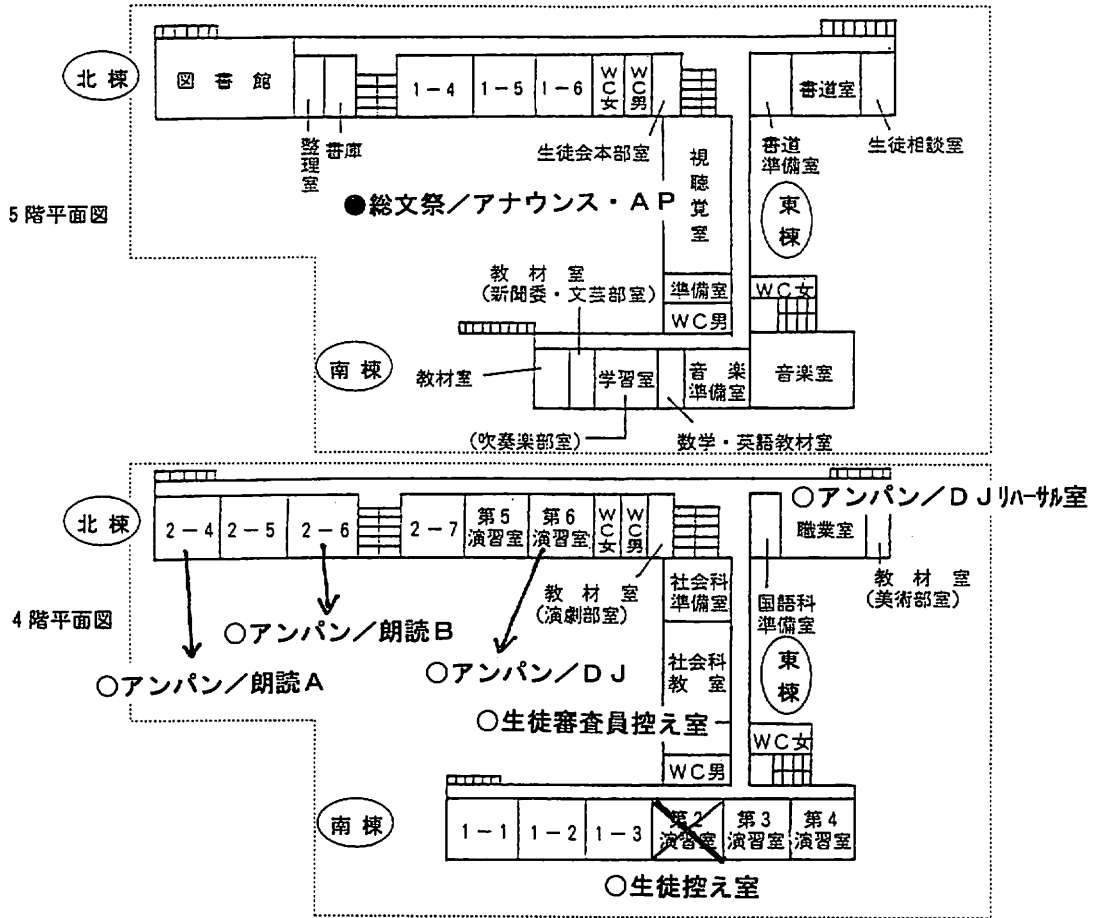
県立瀬谷西高等学校

伊木 良太君

# 会場案内

## 県立座間高等学校





【特別審査員／顧問】

- 本部・・・南棟 2 F 会議室
- 顧問控え室・・・南棟 1 F 応接室

【生徒／一般】

- 総合受付・・・生徒昇降口
- 委員校／役員校・・・南棟 3 F 第一演習室
- 生徒審査員控え室・・・東棟 4 F 社会科教室
- 集計室・・・北棟 2 F コンピュータ室
- 発声練習場・・・体育館西側
- 生徒控え室・・・南棟 4 F 1-1, 1-2, 1-3, 第3演習室, 第4演習室

【審査室】

- アンパン／アナウンス・・・北棟 3 F 2-1
- アンパン／報道・文芸・・・北棟 3 F 2-3
- アンパン／放送劇 A・・・北棟 3 F 3-5
- アンパン／放送劇 B・・・北棟 3 F 3-7
- アンパン／朗読 A・・・北棟 4 F 2-4
- アンパン／朗読 B・・・北棟 4 F 2-6
- アンパン／DJ・・・北棟 4 F 第6演習室
- アンパン／DJリハーサル室・・・職業室

- 総文祭／アナウンス・AP 東棟 5 F 視聴覚教室
- 総文祭／朗読・VM 北棟 3 F 理科講義室

第37回 神奈川県高等学校放送アンデパンダン大会  
 第17回 神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門  
 役員校・委員校 業務分担

<役員校>

- ・ 県立大師           ・ 県立新城           ・ 県立相模田名    ・ 県立横須賀
- ・ 県立座間           ・ 県立多摩           ・ 県立瀬谷西       ・ 県立鶴見

<委員校>

○横浜

- ・ 県立横浜翠嵐    ・ 県立白山    ・ 横浜市立金沢    ・ 私立捜真女学校

○川崎・横須賀・三浦

- ・ 川崎市立商業    ・ 県立柿生    ・ 県立川崎北

○北相・西相

- ・ 私立東海大学付属相模    ・ 県立大和西    ・ 県立大和

○湘南

- ・ 県立平塚江南    ・ 県立茅ヶ崎

<業務分担>

○本部：県立鶴見・県立多摩

○受付：県立新城・県立相模田名

○集計：県立座間

○掲示：県立瀬谷西・県立大師

○閉会式：県立座間・県立新城

<審査補助>

【アンデパンダン大会】

○アナウンス：私立捜真女学校

○朗読A：市立金沢

○朗読B：県立柿生

○DJ：県立平塚江南

○報道・文芸：県立茅ヶ崎

○放送劇A：川崎市立商業

○放送劇B：県立大和西

【総合文化祭放送部門】

○アナウンス・AP：私立東海大相模

○朗読・VM：県立横浜翠嵐

**第 37 回 神奈川県高等学校放送アンデパンダン大会  
実 施 要 領**

1. **目的** : 生徒相互の主体性を尊び、創造性と協調性を向上させ、正しいマスコミュニケーションの理解をはかる。また、高校生の豊かな創造性を育み、芸術的感性の向上をめざす。あわせて校内放送活動の活性化をはかる。

2. **主催・主管**

【アンデパンダン大会】

主催：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会

主管：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会

3. **日時**

2002年11月10日(日)

- ・ 委員校・役員校・審査員集合 8 : 30 (会場準備 8:40 ~ 9:00)
- ・ 受付 9 : 00 ~ 9 : 30
- ・ 作品提出 9 : 10 ~ 9 : 40
- ・ 審査 10 : 00 ~ 16 : 00
- ・ 閉会式 16 : 00 ~ 17 : 00

4. **会場** : 県立座間高等学校

5. **参加資格**

2002年10月現在、神奈川県高等学校視聴覚教育研究会加盟校に在学し、校内放送に携わっている放送部・委員会の生徒であること。

ただし、参加できるのは1、2年生とし、審査員説明会と大会当日、審査員を出さない学校は参加資格がないものとする。審査員は1名以上とし、3年生でもよい。※DJ部門のみ3年生の参加も可とする。

6. **部門・参加本数・参加費用**

【アンデパンダン大会】

	アナ	朗読	報道	DJ	文芸	放送劇
参加本数	5人	5人	2本	1本	1本	1本
参加費用	1作品／1本毎 600円					

## 7. 表彰

- アナウンス・朗読：各会場1～6位  
番組制作：各会場1～4位

## 8. 審査

- ①参加校各1名以上の生徒が審査にあたる。
- ②審査員は次の注意を守ること。
  - ☆部長（委員長）もしくはそれに準じる者であること。
  - ☆大会当日中の交代は不可。
  - ☆10月13日（日）の審査員説明会に出席すること。
  - ☆3年生も可

## 9. 審査基準、方法

- ①高校生として望ましいアナウンスメント、朗読、番組であること。
- ②別紙、「審査の観点」に基づき、審査を行なう。
- ③規定違反の場合、原則として減点・失格の対象となる。
- ④詳細については、審査員および大会実行委員長の協議による。最終判断は、大会実行委員長の責任において行なう。

## 10. 大会当日の受付

- ①受付 9:00～9:30  
受付でプログラムを受け取り、審査会場・番号を確認して、封筒・スクリプト（2部）・テープに記入する。番組部門は著作権処理受付で、支払い等を必ずする。
- ②封筒提出 9:10～9:40（時間厳守）  
記入を終えた作品封筒を各審査会場に各自持参し、審査補助係に提出する。

## 11. アンデパンダン大会諸規定

### A アナウンス部門諸規定

- ①内容：自校のニュースや解説など、高校生活を語る若者の声を内容とし、原稿は自作したものに限る。原稿と実際のアナウンスに相違があってはならない。
- ②時間：1分10秒～1分30秒。  
番号、氏名を含む。
- ③計時：最初の声から最後の声までとする。但し、キューサイン直後から読み始めるようにすること。



## B 朗読部門諸規定

- ①内容：次の5作品から1編を選び、自己の表現したい部分をきめて朗読する。作品の脚色は認めない。また、原稿と実際の朗読に相違があってはならない。
- 1 菊池 寛 「恩讐の彼方に」 (新潮文庫)
  - 2 庄野 潤三「貝がらと海の音」(新潮文庫)
  - 3 有吉 玉青「身代わり」 (新潮文庫)
  - 4 O・ヘンリ「O・ヘンリ短編集 (1)～(3)」(新潮文庫)  
(1)～(3)どれでもよい
  - 5「竹取物語」(現代語訳は不可とする)  
\* ( )内の出版社に限る
- ②時間：1分30秒～2分00秒。  
番号、氏名、作者名、作品名を含む。
- ③計時：最初の声から最後の声までとする。但し、キューサイン直後から読み始めるようにすること。

## C 番組制作部門諸規定

- ①種類と時間：  
文 芸  
録音D J： 9分20秒～10分00秒  
(注意)使用するデッキの回転誤差がありうるため、9分40秒程度で制作することが望ましい。  
報 道： 6分30秒～7分00秒  
放 送 劇：15分00秒以内
- ②内容：  
生徒自らの創作に限る。  
文芸に含まれる作品は次のような作品とする。  
ア)劇形式を主としないもの。 イ)ナレーションが中心となるもの。  
ウ)創作で朗読形式をとるもの。
- ③制作者：  
3年生の協力も事情によっては認めるが、その場合はスクリプトの末尾に学年・氏名・係(役)を明記すること。
- ④使用テープ：  
ア)往復録音時間30～60分のカセットテープを使用。  
イ)A面のみに録音。B面は消去しておく。  
※テープの種類は問わない。
- ⑤録音・再生：  
ア)左右両チャンネルに同じ音を録音する。  
イ)審査は、モノラル、ノーマルポジション、ノンノイズリダクションで

再生して行なう。

ウ)録音はリーダーテープの直後から始め、最後に「制作は〇〇高等学校放送部（委員会）でした」というクレジットコールを入れる。

⑥計時：

ア)審査補助係が、テープがリーダーテープ直後になっていることを確認し、デッキに入れて、ポーズ状態にする。

イ)計時は最初の音が出た瞬間からクレジットコールの最後までとする。

ウ)クレジットコール終了とともに再生を終える。その後どんな音が入っていても審査の対象とはならない。

⑦ラベル：

ア)テープケースに別紙16の「作品票」を貼ること。

イ)テープ本体のA面に、部門名・会場名（当日わかる）・学校名（略称可）を明記した紙を貼ること。

⑧著作権処理について

**18 著作権処理について**をよく読んで、適切に処理すること。

## D 生DJ番組部門諸規定

①種類と時間

生DJ：10分00秒以内（セッティング時間を含む）

②内容：生徒自らの創作に限る。

最低3曲以上の楽曲を使用すること。

③制作者・出場者：

4名までの出場を認める。3年生の参加も可とする。

ただし、当日アナウンス・朗読部門に出場する生徒は出場できない。

④計時：生DJ 審査補助係のコールに続く審査員のキューにより計時をスタートさせ、出場校はセッティングを開始し、そのまま番組を始める。最後のクレジットコール（例：「担当は・・・高校放送部でした」）終了時に計時をストップする。

⑤規格：

i 音源：CDのみ ステレオ再生

（複製音源（CD-Rなど）使用不可）

ii 使用機材：CDデッキ3台・マイク2本・ミキサー1台

iii Qシート：番組の進行のたまかな流れを説明するQシートを作成し、2部提出する。用紙はA4、記入の内容は自由。

⑥リハーサル：

別室において同じ機材を用いて10分以内で行うことができる。

## 12. スクリプトに関する規定

- ①神奈川県高等学校視聴覚教育研究会で作成した原稿用紙を使用する。
- ②作品1本(1人)について2部提出する。
- ③第49回NHK杯全国高校放送コンテストの様式規定に従って作成する。  
 ☆アナウンス・朗読→様式規定1 ☆番組→様式規定3  
 ☆生DJ→形式は自由(A4用紙を使用する)
- ④スクリプトとテープを角3の封筒に入れ、封筒の表にはスクリプトの表紙と同様の記載をする。
- ⑤スクリプト表紙(及び封筒表書)の見本

### <アナウンス、朗読>

作品名	作者名	氏名	学校名	朗読部門
こころ	夏目漱石	宮田輝	県会 ◎ △ 高等学校	[A] 場 [13] 番

### <番組>

制作代表者	再生時間	タイトル	学校名	報道部門
神奈川県次郎	9分40秒	ああ青春	県立神奈川高等学校	[B] 会場 [22] 番

注意1 アナウンス部門は、作者名・作品名は不要。

注意2 [ ]のなかは、大会当日、プログラムを見て記入する。

## 15. その他

上記以外の規定については、第49回NHK杯全国高校放送コンテスト神奈川県大会の実施要領に準じる。

第34回 神奈川県高等学校放送アンデパンダン大会  
役員一覧

1. 実行委員

実行委員長	大貫 祝和	(県立座間高等学校)
実行副委員長	中野 可愛	(県立多摩高等学校)
実行副委員長	伊藤 真委子	(県立大師高等学校)
実行副委員長	星 久美子	(県立鶴見高等学校)
実行副委員長	吉田 美里	(県立相模田名高等学校)
実行副委員長	伊木 良太	(県立瀬谷西高等学校)
実行副委員長	荒川 春介	(県立新城高等学校)
前実行委員長	新名 啓子	(県立大師高等学校)

2. 補助教員

小林 正英	(県立大師高等学校)
石川 岩夫	(県立相模田名高等学校)
木幡 悦子	(県立新城高等学校)
金子 英樹	(県立横須賀高等学校)
海部 弘	(県立多摩高等学校)
下田 加容子	(県立座間高等学校)
佐々木 新	(県立瀬谷西高等学校)
上前 悟	(県立鶴見高等学校)

第 3 7 回 神奈川県高等学校放送アンデパンダン大会  
審 査 の 観 点

《アナウンス》

①配点と観点

- 1 点数は100点法とする。
- 2 原稿に関する項目を30点、アナウンスの技術に関する項目を70点とする。
- 3 原稿
  - ・素材の選び方 ・文章表現の確かさ ・内容の深さ
- 4 アナウンスの技術
  - ・マイクの使い方 ・発声及び発音 ・アクセント ・プロミネンス
  - ・イントネーション・テンポ ・ポーズ

② 審査上の留意点

- 1 基礎的・基本的事項の不備なものに高い評価をしない。(特に鼻濁音、無声化、語尾の延びについて)
- 2 元気があって明るいのはよいが、いわゆるコンテスト調(歌い上げる調子のもの)に高い評価をしない。
- 3 自然で張りのある若々しいアナウンスを高く評価する。

《朗読》

①配点と観点

- 1 点数は100点法とする。
- 2 原稿に関する項目を30点、朗読の技術に関する項目を70点とする。
- 3 原稿
  - ・作品の選び方・朗読部分の抜き出し方
- 4 朗読の技術
  - ・マイクの使い方・発声及び発音・アクセント・プロミネンス
  - ・イントネーション・テンポ・ポーズ・内容の把握・表現の仕方

②審査上の留意点

- 1 基礎的・基本的事項の不備なものに高い評価をしない。(特に鼻濁音、無声化、語尾の延びについて)
- 2 作り声、過度の感情移入、あるいは自分一人で酔っているような朗読については厳しく評価する。
- 3 自然で、深みがある朗読を高く評価する。

## 《報道》

### ①配点と観点

- 1 点数は、100点法とする。
- 2 テーマ点を50点、制作技術点を50点とする。
- 3 テーマ点（50点）
  - a. テーマをよく捉え、見事に表現している（50点）
  - b. テーマにふさわしい（40点）
  - c. テーマにふさわしいが、いま一步（30点）
  - d. テーマがややずれている（20点）
  - e. テーマにふさわしくない（10点）
- 4 制作技術点（50点）
  - (1) 制作の手法 (2) 取材の方法や努力 (3) 企画と構成
  - (4) 演出と編集 (5) 技術（録音の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽や効果音の使い方など）
  - a. 特に優れている（50点）
  - b. 優れている（40点）
  - c. 普通である（30点）
  - d. やや劣る（20点）
  - e. はなはだしく劣る（10点）

### ②審査上の留意点

- 1 制作時間及び制作方法に関する参加規定に抵触していないかどうか。
- 2 他のコンクールに出品したもの、またはそれを手直したものでないかどうか。
- 3 放送局の番組を主体としたものでないかどうか。

## 《文芸・放送劇》

### ①配点と観点

- 1 点数は、100点法とする。
- 2 テーマ点を50点、制作技術点を50点とする。
- 3 脚本点（50点）

テーマに対し、適切な素材を選び、効果的に表現しているか。

  - a. すばらしいできればである（50点）
  - b. 良く出来た内容である（40点）
  - c. 内容はよいが、いま一步（30点）
  - d. 平凡でおもしろくない（20点）
  - e. もう少し勉強してみても（10点）
- 4 制作技術点（50点）
  - (1) 制作の手法 (2) 取材の方法や努力 (3) 企画と構成 (4) 演出と編集
  - (5) 技術（録音の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽や効果音の使い方など）
  - a. 特に優れている（50点）
  - b. 優れている（40点）
  - c. 普通である（30点）
  - d. やや劣る（20点）
  - e. はなはだしく劣る（10点）

### ②審査上の留意点

- 1 制作時間及び制作方法に関する参加規定に抵触していないかどうか。
- 2 他のコンクールに出品したもの、またはそれを手直したものでないかどうか。
- 3 放送局の番組を主体としたものでないかどうか。

《 D J 》

①配点と観点

- 1 点数は、100点法とする。
- 2 脚本点を50点、制作技術点を50点とする。
- 3 脚本点（50点）

表現したいテーマに対し適切な素材を選び、効果的に表現しているか。

- a. すばらしいできばえである（50点） b. 良く出来た内容である（40点） c. 内容はよいが、いま一步（30点） d. 平凡でおもしろくない（20点） e. もう少し勉強してみてもは（10点）

4制作技術点（50点）

(1) 制作の手法 (2) 取材の方法や努力 (3) 企画と構成 (4) 演出と編集  
(5) 技術（録音の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽や効果音の使い方など）

- a. 特に優れている（50点） b. 優れている（40点）  
c. 普通である（30点） d. やや劣る（20点）  
e. はなはだしく劣る（10点）

②審査上の留意点

- 1 制作時間及び制作方法に関する参加規定に抵触していないかどうか。
- 2 他のコンクールに出品したもの、またはそれを手直ししたものではないかどうか。
- 3 放送局の番組を主体としたものでないかどうか。

<p>第37回 神奈川県高等学校放送アンデパンダン大会 審査員一覧</p>
---

《アナウンスA》

伊木 良太 (県立瀬谷西)  
 金子 都美 (県立座間)  
 小菅 綾 (県立有馬)  
 佐藤 陽平 (県立横浜翠嵐)  
 高瀬 真理 (私立法政大学女子)

《朗読A》

猪俣 美菜 (県立元石川)  
 岩澤 亜沙美 (川崎市立商業)  
 臼居 順子 (横浜市立金沢)  
 坂本 達也 (県立多摩)  
 荒川 瑞穂 (県立神奈川総合)  
 岸 健太郎 (私立麻布大学淵野辺)

《朗読B》

藤堂 孝 (県立大和東)  
 日置 秀馬 (県立六ッ川)  
 山口 朋美 (県立大和西)  
 藤井 亮太 (私立逗子開成)  
 岩淵 佑馬 (私立相洋)  
 江尻 綾子 (私立富士見丘)

《報道・文芸》

飯野 正顯 (横浜立南)  
 清水 絵里 (私立相模女子大学)  
 北村 紗帆 (県立市ヶ尾)  
 大塚 直輝 (横浜市立戸塚)  
 片岡 友美 (県立足柄)

《DJ》

小俣 亮 (私立向上)  
 増島 一成 (私立法政第二)  
 児玉 修平 (県立永谷)  
 竹下 正洋 (私立日本大学)  
 深澤 伸也 (県立横浜日野)

《放送劇A》

桑 恵子 (県立神奈川工業)  
 桑島 亜希 (県立茅ヶ崎)  
 瀧澤 あい (県立金井)  
 金崎 晃子 (県立豊田)  
 持丸 愛 (県立鶴見)

《放送劇B》

鈴木 エリカ (私立日大藤沢)  
 鈴木 美陽子 (県立追浜)  
 安西 望 (県立海老名)  
 富樫 美香 (県立大師)  
 中上 晃子 (私立捜真女学院)



第37回 神奈川県高等学校放送アンデバンダン大会  
エントリー一覧

【アナウンス部門】

No	学校名	氏名	学年
1	県立有馬	渡辺 颯	2
2	県立大和西	上野 碧	1
3	県立六ツ川	重野 友佳	1
4	私立富士見丘	沖久 真鈴	2
5	県立神奈川総合	下條 永美子	2
6	県立大和西	小林 達也	1
7	県立元石川	畠山 千春	2
8	県立神奈川総合	妹尾 悠美	1
9	県立横浜翠嵐	結城 伸樹	2
10	県立平塚江南	露木 吾子	1
11	私立法政大学第二	荒井 健一	1
12	県立多摩	山崎 江里子	2
13	県立大和東	小峰 かおり	2
14	県立大師	伊藤 真委子	2
15	県立六ツ川	白石 真弓	1
16	県立神奈川総合	比嘉 まどか	1
17	県立横浜翠嵐	喜納 彬光	2
18	県立平塚江南	橋本 真喜子	2
19	私立法政大学第二	大山 慎史	1
20	県立元石川	吉田 紳一郎	1
21	県立大和東	佐々木 舞	2
22	県立横浜翠嵐	中川原 由偉	1
23	県立平塚江南	長尾 桂江	1
24	私立法政大学第二	岡部 真典	1

No	学校名	氏名	学年
25	県立座間	千葉 さゆり	2
26	県立相模田名	吉田 美里	2
27	県立野庭	加藤 真央	1
28	県立六ツ川	北村 光	1
29	県立永谷	山本 永緒紀	1
30	県立足柄	大森 佐恵子	2
31	県立大和東	尾花 季恵	2
32	私立法政大学第二	兼坂 尚宏	1
33	私立相模女子大学	加山 恵子	2
34	県立有馬	戸嶋 舞鈴	1
35	私立法政大学女子	竹内 文音	1
36	県立座間	吉澤 敦子	1
37	県立大和西	井上 愛美	1
38	県立六ツ川	大橋 幸恵	1
39	県立市ヶ尾	朝倉 光代	2
40	県立足柄	内藤 隼人	2
41	県立横浜翠嵐	山川 真広	1
42	県立金井	近藤 麻由	1
43	私立法政大学女子	佐藤 まりの	2
44	県立大和東	末住 洋輔	2
45	県立野庭	石田 香織	1
46	県立新城	田中 靖子	1
47	私立富士見丘	河野 恵	1

【朗読部門】

A会場

No	学校名	氏名	学年
1	県立多摩	山崎 友花	1
2	県立神奈川総合	原田 朋美	2
3	市立南	鷺平 由布紀	2
4	県立横浜翠嵐	木村 咲子	2
5	私立法政大学女子	宇治橋 美穂	2
6	県立大師	高橋 恵美	2
7	市立南	嶋津 直哉	1
8	県立金井	平野 賢治	2
9	県立六ツ川	寺澤 壘	1
10	私立相洋	杉本 幸允	1
11	県立座間	落合 香織	2
12	私立法政大学第二	長島 秋介	1
13	県立神奈川総合	松川 充	1
14	県立元石川	川崎 ゆかり	2
15	市立戸塚	塚原 麻衣	1
16	私立日本大学	関根 一樹	1
17	県立海老名	園子 翔	2
18	私立麻布大付属野辺	松田 淳太郎	2
19	県立平塚江南	尾 美由紀	1
20	私立富士見丘	柏原 宏美	2
21	県立座間	都志 みどり	1
22	県立大和東	立岩 麻衣	2
23	県立元石川	佐藤 奈津美	1
24	私立相洋	松本 瑞	1
25	県立市ヶ尾	元木 珠美	2
26	県立神奈川工業	長崎 啓司	1
27	私立富士見丘	小川 美弥子	2
28	私立法政大学第二	田上 詩音	2
29	県立大和西	石渡 希	1
30	県立平塚江南	原 育子	2
31	私立相洋	相磯 優	1
32	県立六ツ川	田島 真吾	2
33	私立向上	中村 早紀	2
34	県立汲沢	日野 杏奈	2
35	県立足柄	大石 昭彦	1
36	私立捜真女学校	葉山 悠	2
37	県立野庭	森 隼介	1
38	県立座間	平石 夏恵	1
39	市立金沢	大塚 雄一	1
40	県立大和西	谷田 夏美	1
41	県立豊田	三浦 結子	2
42	私立麻布大付属野辺	戸田 篤志	2
43	市立川崎商業	橋津 多恵子	1
44	市立戸塚	井手上 大樹	1
45	県立神奈川工業	芳賀 蒼幸	2
46	県立多摩	大堀 貴彰	1
47	私立法政大学第二	西村 憲彦	1
48	私立法政大学女子	中西 絵里子	1
49	県立追浜	大貫 賢志	2
50	県立日野	鈴木 香苗	1
51	市立金沢	渡辺 りつ子	2

B会場

No	学校名	氏名	学年
1	県立六ツ川	長沢 由輝子	2
2	私立相洋	中村 祐貴	1
3	県立大和西	三好 利予	1
4	市立金沢	松本 美那海	2
5	県立小田原	柚村 歩	2
6	県立元石川	福本 健史	2
7	私立捜真女学校	福崎 菜美子	1
8	県立市ヶ尾	白石 優子	1
9	私立法政大学第二	高木 惇矢	1
10	私立相洋	橋本 和貴	1
11	県立座間	加島 慎也	2
12	私立向上	小林 明子	1
13	県立野庭	吉田 菫純	1
14	県立有馬	和泉 文香	1
15	県立鶴見	笠井 一輝	1
16	県立豊田	尾崎 幸大	2
17	私立向上	星野 真実	2
18	県立追浜	益田 枝理子	1
19	県立横浜翠嵐	吉崎 功二	2
20	県立相模田名	押久保 千尋	2
21	私立逗子開成	澁田 裕介	1
22	県立平塚江南	水流 里美	2
23	市立南	篠塚 真帆	1
24	県立汲沢	福島 希	2
25	県立瀬谷西	松本 隆大	1
26	県立足柄	伊藤 洋子	2
27	私立法政大学第二	山名 克典	1
28	県立平塚江南	岩崎 恩	1
29	県立多摩	渡邊 雅子	1
30	県立大和東	星上 尚子	2
31	県立神奈川工業	金澤 広志	1
32	私立麻布大付属野辺	水谷 正慈	1
33	県立六ツ川	徳永 悟深	2
34	県立神奈川総合	子安 由利子	2
35	私立法政大学女子	宮崎 真実	2
36	私立捜真女学校	飯田 沙織	2
37	市立金沢	宮林 森央	2
38	県立多摩	名取 ぶゆみ	1
39	県立大和東	小林 竜太	2
40	県立大師	和田 恵里香	2
41	県立大和西	沢田 魅月	1
42	私立富士見丘	鈴木 亜沙美	1
43	市立戸塚	篠塚 奈保子	1
44	県立元石川	内村 信孝	1
45	県立金井	安中 真理子	1
46	私立法政大学女子	雑賀 朋子	2
47	私立富士見丘	淺沼 友佳理	2
48	県立海老名	川上 貴弘	2
49	県立座間	大濱 ゆかり	1
50	県立神奈川総合	西端 悠	2
51	県立神奈川工業	平井 大輔	2

【放送劇部門】

A会場

No	学校名	氏名	学年
1	県立足柄	伊藤 洋子	2
2	県立神奈川総合	秋葉 典子	2
3	私立東海大学付属相模	竹内 圭伸	2
4	県立神奈川工業	金澤 広志	1
5	県立海老名	田中 結	1
6	県立有馬	瀬戸 慎之	1
7	私立法政大学女子	雑賀 朋子	2
8	県立金井	平野 賢治	2

B会場

No	学校名	氏名	学年
1	私立麻布大学付属淵野辺	松田 拓也	1
2	県立平塚江南	兼石 崇弘	1
3	県立座間	落合 香織	2
4	県立追浜	益田 枝理子	1
5	県立大和西	三好 利予	1
6	県立茅ヶ崎	手島 未来	2
7	私立法政大学第二	三谷 健太	1
8	相模田名	押久保 千尋	2

【DJ部門】

No	学校名	氏名	学年	形式
1	私立法政大学第二	田上 詩音	2	録音
2	私立日本大学	竹下 正洋	1	録音
3	県立多摩	杉浦 枝里	1	録音
4	私立日大藤沢	柳下 和哉	1	録音
5	私立麻布大学付属淵野辺	小坂 研二	2	生
6	県立海老名	関原 和哉	2	生
7	県立鶴見	斎藤 遼介	1	生

【文芸部門】

No	学校名	氏名	学年
1	県立多摩	山本 綾子	1
2	県立追浜	大貫 賢志	2
3	県立足柄	大石 昭彦	1
4	私立法政大学第二	田上 詩音	2
5	県立鶴見	笠井 一輝	1
6	県立金井	森下 沙希	2

【報道部門】

No	学校名	氏名	学年
1	私立法政大学女子	宇治橋 美穂	2
2	県立平塚江南	長尾 佳江	1
3	私立法政大学女子	宮崎 真実	2
4	私立法政大学第二	高木 惇矢	1

第17回 神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門  
実施要領

1. 目的：生徒相互の主体性を尊び、創造性と協調性を向上させ、正しいマスキューニケーションの理解をはかる。また、高校生の豊かな創造性を育み、芸術的感性の向上をめざす。あわせて校内放送活動の活性化をはかる。

2. 主催・主管

主催：神奈川県高等学校文化連盟

神奈川県高等学校視聴覚教育研究会

神奈川県教育委員会

主管：神奈川県高等学校文化連盟放送・情報専門部会

(神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会)

後援：TVK・FM横浜・朝日新聞社横浜支局・神奈川新聞社・有隣堂

3. 参加資格

【神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門】 1・2年生とする。

【全国高等学校総合文化祭(福井大会) 放送部門】

県大会で優秀な成績を修めた生徒・作品を、順位順に上位から推薦する。ただし、以下に項目に該当する場合は、全国大会に推薦されない。

\* 高文連未加盟校の生徒及び作品

\* アナウンス・朗読部門の前年度全国大会出場経験者の生徒

\* AP・VM部門の前年度全国大会出場経験者が制作代表者の作品

\* AP・VM部門で、複数の作品が出場資格を得た学校における下位の作

品

4. 日時

2002年11月10日(日)	9:00~16:00
・受付	9:00~ 9:20
・作品提出	9:20~ 9:40
・審査	10:00~15:30
・閉会式	15:30~16:00

5. 会場： 県立座間高等学校

6. 部門・参加本数・参加費用

	アナ	朗読	オーディオビジュアル	ビデオメッセージ
参加本数	1本	1本	2本	2本
参加費用	無料（高文連未加盟校は600円/1作品）			

7. 表彰

アナウンス・朗読：各1～6位

1位に教育長賞、2～3位に高文連会長賞、  
4～6位に高視研会長賞

オーディオビジュアル：上位6作品

1位に教育長賞、2～6位に高視研会長賞

ビデオメッセージ：上位6作品

1位に教育長賞、2位に高文連会長賞、  
3～6位に高視研会長賞

注1)

2003年度全国高等学校総合文化祭(福井)には次の本数を推薦する。

アナウンス・朗読 各3人

オーディオビジュアル 1作品

ビデオメッセージ 2作品

注2)

神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門最優秀作品(教育長賞)の表彰は、平成14年度かながわ高校芸術祭閉会式(2003年1月)に芸術祭他部門とともに行なわれる。

注3)

審査対象作品が少なかった場合は、表彰本数を減らすことがある。

## 8. 審査・審査基準

- ①各部門、教員審査員とTVK、FMヨコハマからの特別審査員による。
- ②別紙、「審査の観点」に基づき、審査を行なう。
- ③規定違反の場合、原則として減点・失格の対象となる。
- ④詳細は、審査員およびコンテスト運営委員長の協議による。

## 9. 参加申込

2002年10月13日(日) 実施済み

## 10. 大会当日の受付

- ①受付 9:00~9:20  
受付でプログラムを受け取り、審査会場・番号を確認して、封筒・スクリプト(2部)・テープに記入する。
- ②封筒提出 9:20~9:40(時間厳守)  
記入を終えた作品封筒を、指定された場所に各自持参し、審査補助係に提出する。

## 11. 神奈川県高等学校総合文化祭放送部門諸規定

※次年度の全国総合文化祭放送部門参加要領に準ずる。

### A アナウンス部門

- ①内容：詩、短歌、俳句などの内容を含んだ話題を全国の仲間に伝える内容の自作原稿とし、JPEG形式のデジタル静止画像(5枚以内)を併用することができる。BGMは使用できない。(校内の話題は不可。)
- ②時間：1分30秒以内。学校名、氏名を含む。
- ③審査方法：テープ審査とする。
- ④使用テープ：アンデパンダン大会・番組制作部門諸規定に準ずる。
- ⑤録音・再生：アンデパンダン大会・番組制作部門諸規定に準ずる。
- ⑥計時：アンデパンダン大会・番組制作部門諸規定に準ずる。
- ⑦ラベル：アンデパンダン大会・番組制作部門諸規定に準ずる。
- ⑧規格：JPEG形式デジタル静止画像
  - ア)ビデオプロジェクター(1台)よりパソコンからデジタル静止画像を投影します。
  - イ)画像データはCD-ROMにより提出してください。
  - ウ)画像は台本にしたがい、審査補助生徒が行います。

## B 朗読部門

- ①内容：郷土にゆかりのある作家及び作品の中から原文のままを一部選んで原稿とし、効果音やBGMを併用することができる。  
スライドは使用できない。
- ②時間：2分以内。校名、氏名を含む。
- ③審査方法：テープ審査とする。
- ④使用テープ：アンデパンダン大会・番組制作部門規定に準ずる。
- ⑤録音・再生：アンデパンダン大会・番組制作部門規定に準ずる。
- ⑥計時：アンデパンダン大会・番組制作部門規定に準ずる。
- ⑦ラベル：アンデパンダン大会・番組制作部門規定に準ずる。

## C オーディオピクチャー（AP）部門

- ①内容：詩、短歌、俳句等に関連した、カセットテープによるステレオ音声とJPEG形式静止画像（枚数は50枚）を併用する未発表の作品とする。  
ドキュメンタリー形式、ドラマ形式など手法は問わない（MDも可）。
- ②時間：5分以内。
- ③使用テープ：アンデパンダン大会・番組制作部門規定に準ずる。
- ④録音・再生：ステレオ再生。（MD使用校は持ち込み再生とする）
- ⑤計時：アンデパンダン大会・番組制作部門規定に準ずる。
- ⑥ラベル：アンデパンダン大会・番組制作部門規定に準ずる。
- ⑦再生・プロジェクタによるデジタル画像上映：全国大会実施要項に準ずる。
- ⑧規格：JPEG形式によるデジタル静止画像  
ア) プロジェクタは1台。  
イ) 50枚以内 総容量は50MB以内とします。

## D ビデオメッセージ（VM）部門

- ①内容：内容・手法は、自由とする。  
自校オリジナルのビデオ作品とする。
- ②時間：5分以内。前後に20秒のテストパターンを入れる。形式はNHK杯全国高校放送コンテスト様式規定7に準じる。動きのあるテストパターン、フェーダーを使用したテストパターンは禁止。
- ③計時：番組本体についてのみ行なう。
- ④規格：ア) VTRはVHS・S-VHSとする。  
イ) 音声はHi-Fi又はノーマルとする。
- ⑤ラベル：アンデパンダン大会番組制作部門規定に準ずる。
- ⑥その他：DVの使用も可とするが、DV使用校は、持ち込み再生とする。  
上記以外の規定については、NHK杯全国高校放送コンテスト神奈川県大会の実施要領に準じる。

※ 共通事項

18 著作権処理についてにしたがって適切に著作権の処理を行ってください。

12. スクリプトに関する規定

- ①神奈川県高等学校視聴覚教育研究会で作成した原稿用紙を使用する。
- ②作品1本(1人)について2部提出する。
- ③第49回NHK杯全国高校放送コンテストの様式規定3に従って作成する。
- ④スクリプトとテープ(およびスライド)を角2の封筒に入れ、封筒の表にはスクリプトの表紙と同様の記載をする。
- ⑤スクリプト表紙(及び封筒表書)の見本(アンデパンダン大会を参考)

13. その他

上記以外の規定については、NHK杯全国高校放送コンテスト神奈川県大会の実施要領に準じる。



第17回 神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門  
役員一覽

1. 主催

神奈川県高等学校文化連盟 会長 足田 武夫（県立横須賀高等学校）  
神奈川県高等学校視聴覚教育研究会  
（県高文連放送情報専門部会） 会長 五十嵐 勲（県立厚木南高等学校）

2. 運営

小林 正英（県立大師高等学校） 石川 岩 （県立相模田名高等学校）  
木幡 悦子（県立新城高等学校） 金子 英樹（県立横須賀高等学校）  
海部 弘（県立多摩高等学校） 下田 加容子（県立座間高等学校）  
佐々木 新（県立瀬谷西高等学校） 上前 悟（県立鶴見高等学校）

第17回 神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門  
審査の観点

《アナウンス部門》

①配点と観点

1. 点数は100点法とする。
2. 原稿に関する項目を30点、アナウンスの技術に関する項目を70点とする。
3. 原稿  
・素材の選び方 ・文章表現の確かさ ・内容の深さ
4. アナウンスの技術  
・マイクの使い方 ・発声及び発音 ・アクセント ・プロミネンス  
・イントネーション・テンポ ・ポーズ

②審査上の留意点

1. 基礎的・基本的事項の不備なものに高い評価をしない。（特に鼻濁音、無声化、語尾の伸びについて）
2. 元気があって明るいのはよいが、いわゆるコンテスト調（歌い上げる調子のもの）に高い評価をしない。
3. 自然で張りのある若々しいアナウンスを高く評価する。
4. スライドが効果的に使用されている場合には全体的な印象点として合計点に加味する。

## 《朗読部門》

### ①配点と観点

1. 点数は100点法とする。
2. 原稿に関する項目を30点、朗読の技術に関する項目を70点とする。
3. 原稿
  - ・作品の選び方・朗読部分の抜き出し方
4. 朗読の技術
  - ・マイクの使い方・発声及び発音 ・アクセント ・プロミネンス ・イントネーション ・テンポ ・ポーズ ・内容の把握 ・表現の仕方

### ②審査上の留意点

1. 基礎的・基本的事項の不備なものに高い評価をしない。(特に鼻濁音、無声化、語尾の延びについて)
2. 作り声、過度の感情移入、あるいは自分一人で酔っているような朗読については厳しく評価する。
3. 自然で、深みがある朗読を高く評価する。
4. 効果音・BGMが効果的に使用されている場合には全体的な印象点として合計点に加味する。

## 《オーディオ・ピクチャー部門》

### ①配点と観点

1. 点数は100点法とする。
2. 脚本点を50点、制作技術点を50点とする。
3. 脚本点(50点)
  - テーマに対し、適切な素材を選び、効果的に表現しているか。
  - a. 高校生としてすばらしいできばえである (50点)
  - b. 良く出来た内容である (40点)
  - c. 内容はよいが、いま一歩 (30点)
  - d. 平凡でおもしろくない (20点)
  - e. もう少し勉強してみても (10点)

### 4. 制作技術点(50点)

- (1) 制作の手法 (2) 取材の方法や努力 (3) 企画と構成 (4) 演出と編集
- (5) 技術(録音の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽や効果音の使い方、スライドと音響のリンクなど)
  - a. 特に優れている (50点)      b. 優れている (40点)
  - c. 普通である (30点)      d. やや劣る (20点)
  - e. はなはだしく劣る (10点)

### ②審査上の留意点

1. 制作時間及び制作方法に関する参加規定に抵触していないかどうか。

2. 他のコンクールに出品したもの、またはそれを手直ししたものでないかどうか。
3. 放送局の番組を主体としたものでないかどうか。

## 《ビデオメッセージ部門》

### ①配点と観点

1. 点数は100点法とする。
2. 脚本点を50点、制作技術点を50点とする。
3. 脚本点(50点)

テーマに対し、適切な素材を選び、効果的に表現しているか。

- a. 高校生としてすばらしいできばえである (50点)
- b. 良く出来た内容である (40点)
- c. 内容はよいが、いま一步 (30点)
- d. 平凡でおもしろくない (20点)
- e. もう少し勉強してみても (10点)

### 4. 制作技術点(50点)

- (1) 制作の手法 (2) 取材の方法や努力 (3) 企画と構成 (4) 演出と編集
  - (5) 技術(録音・録画の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽や効果音の使い方など)
- a. 特に優れている (50点)
  - b. 優れている (40点)
  - c. 普通である (30点)
  - d. やや劣る (20点)
  - e. はなはだしく劣る (10点)

### ②審査上の留意点

1. 制作時間及び制作方法に関する参加規定に抵触していないかどうか。
2. 他のコンクールに出品したもの、またはそれを手直ししたものでないかどうか。
3. 放送局の番組を主体としたものでないかどうか。

第17回 神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門  
審査員一覧

《アナウンス部門》

- ◎横須賀 真 (県立柿生)  
杉浦 敏明 (県立豊田)  
三宅 義人 (捜真女学校)  
荒木 敏行 (日本大学)  
山中 広行 (県立多摩)

《朗読部門》

- ◎中津川 雅則 (県立平塚江南)  
畠山 純一 (県立追浜)  
相澤 英樹 (麻布大学附属淵野辺)  
山本 良子 (県立金井)  
(Fmykohama)

《オーディビトクチャー部門》

- ◎井浦 弘 (県立六ツ川)  
中沢 邦治 (県立大和西)  
吉田 健一 (県立神奈川総合)  
野中 俊男 (向上)  
千葉 祥一 (県立白山)

《ビデオフィット部門》

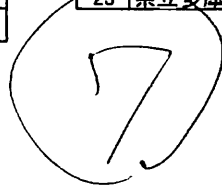
- ◎関 広行 (県立大和東)  
武 由里子 (県立小田原)  
両毛 明史 (県立足柄)  
渡邊 弘 (法政大学第二)  
内田 慎一 (TVK)

第17回 神奈川県高等学校総合文化祭 放送部門  
エントリー一覧

【アナウンス部門】

No	学校名	氏名	学年
1	県立瀬谷西	伊木 良太	2
2	私立捜真女学校	細井 沙友里	2
3	私立麻布大付属淵野辺	野瀬 達也	1
4	私立日大藤沢	成田 真実	2
5	県立元石川	畠山 千春	2
6	私立法政大学第二	西村 憲彦	1
7	県立新城	田中 靖子	1
8	県立座間	金子 都美	2
9	県立神奈川総合	下條 永美子	2
10	私立富士見丘	沖久 真鈴	2
11	県立野庭	加藤 真央	1
12	私立法政大学女子	雑賀 朋子	2

No	学校名	氏名	学年
13	県立足柄	大森 佐恵子	2
14	県立大師	伊藤 真委子	2
15	県立金井	近藤 麻由	1
16	県立大和西	筒井 彩乃	2
17	私立相模女子	福田 友美	1
18	県立相模田名	吉田 美里	2
19	県立追浜	益田 枝理子	1
20	県立大和東	末住 洋輔	2
21	県立有馬	和泉 文香	1
22	県立六ツ川	白石 真弓	1
23	県立多摩	山崎 友花	1



【朗読部門】

2

No	学校名	氏名	学年
1	県立追浜	大貫 賢志	2
2	県立横浜日野	鈴木 香苗	1
3	県立神奈川総合	原田 朋美	2
4	県立六ツ川	田島 真吾	2
5	県立元石川	川崎 ゆかり	2
6	県立大和東	星上 尚子	2
7	県立鶴見	笠井 一樹	
8	県立多摩	渡辺 雅子	1
9	私立麻布大学附属淵野辺	豊島 奈緒	1
10	私立逗子開成	藤井 亮太	1
11	私立向上	星野 真実	2
12	県立足柄	伊藤 洋子	2
13	私立法政大学女子	宮崎 真実	2

No	学校名	氏名	学年
14	私立法政大学第二	田上 詩音	2
15	県立大師	高橋 恵美	2
16	県立小田原	袖村 渡	2
17	県立有馬	渡辺 颯	2
18	私立相洋	石川 仁史	1
19	県立相模田名	押久保 千尋	2
20	私立日大藤沢	奥山 菜央	2
21	県立白山	佐野 葵	2
22	県立平塚江南	上野 純一	2
23	県立大和西	沢田 魅月	1
24	私立日大	関根 一樹	1
25	県立金井	安中 真理子	1

【オーディオピクチャー部門】

No	学校名	氏名	学年
1	県立大和西	小林 遼也	1
2	県立座間	豊島 杏奈	1
3	県立足柄	伊藤 洋子	2
4	県立神奈川工業	戸叶 裕司	2
5	私立法政大学第二	岡部 真典	1
6	県立平塚江南	兼石 崇弘	1

No	学校名	氏名	学年
7	私立向上	中村 隆之	2
8	県立永谷	山本 永緒紀	1
9	私立捜真女学校	長谷川 綾香	1
10	私立法政大学第二	荒井 健一	1
11	県立座間	太田 彩香	1

【ビデオメッセージ部門】

No	学校名	氏名	学年
1	県立神奈川工業	平井 大輔	2
2	県立座間	加島 慎也	2
3	県立金井	平野 賢治	2
4	県立永谷	和田 昌久	2
5	私立法政大学第二	西村 憲彦	1
6	県立大和東	佐藤 進也	2
7	県立平塚江南	橋本 真喜子	2
8	私立麻布大学付属淵野辺	松田 拓也	1
9	私立日大藤沢	鈴木 エリカ	2
10	県立追浜	大貫 賢志	2

No	学校名	氏名	学年
11	私立日本大学	竹下 正洋	1
12	私立法政大学第二	大山 慎史	1
13	私立東海大相模	組原 寛之	1
14	私立相模女子大学	清水 絵理	2
15	県立大師	高橋 恵美	2
16	県立座間	大谷 広樹	1
17	県立大和西	沢田 魅月	1
18	私立向上	小竹 慎太郎	2
19	私立日大藤沢	竹内 美貴	2

## 神奈川県高等学校総合文化祭の紹介

「神奈川県高等学校総合文化祭放送部門」は神奈川県高等学校文化連盟が主催する「神奈川県高等学校総合文化祭」の放送部門として行われています。総文祭には全部で23の部門があり、放送部門もそのうちの一部門です。

各部門は毎年11月から翌年の1月にかけて県下の各地でそれぞれの催しを行っています。

「神奈川県高等学校総合文化祭」の開会式は10月27日(土)に県立音楽堂で行われました。閉会式は来年1月18日(土)に、横浜西公会堂で行われる予定です。今回の総合文化祭放送部門の優秀作品の表彰は、この閉会式で他の部門と共に行われます。

「神奈川県高等学校総合文化祭」の開会式、閉会式運営には、放送関係から次の方々が携わっています。

### 1. 式の運営

県高文連	放送情報専門部	部会長	五十嵐 勲	(県立厚木南高等学校)
	同	理事	海部 弘	(県立多摩高等学校)
	同	事務局長	小林 正英	(県立柿生西高等学校)
	同	編集委員	金子 英樹	(県立横須賀高等学校)
	同	総合文化祭実行委員	北詰 昌孝	(法政大学第二高等学校)
	同	総合文化祭生徒委員	林 聡	(法政大学第二高等学校)

### 2. 開会式司会

山崎 江里子(県立多摩高等学校)  
沖久 真鈴 (富士見丘高等学校)

### 3. 閉会式司会

正垣 知美 (法政女子高等学校)  
子安 由利子 (県立多摩高等学校)

### 4. 開会式記録

法政大学第二高等学校

### 5. 閉会式記録

法政大学第二高等学校

2002年度放送アンデパンダン大会・県高等学校総合文化祭放送部門大会 出場校及び参加本数一覧

	校名	アナウ ンス	朗読	DJ	報道	文芸	放送 劇	計	アナウ ンス	朗読	AP	VM	計
	横浜地区												
1	県立鶴見		1	1		1		3		1			1
2	県立翠嵐	4	2					6					0
3	県立神奈川工業		4				1	5			1	1	2
4	県立横浜日野		1					1	1	1			2
5	県立市が尾	1	2					3					0
6	県立金井	1	2			1	1	5	1	2		1	4
7	県立野庭	2	2					4					0
8	県立瀬谷西		1					1	1				1
9	県立汲沢		2					2					0
10	県立豊田		2					2					0
11	県立白山							0		1			1
12	県立元石川	2	4					6	1	1			2
13	県立永谷	1						1			1	1	2
14	県立六ツ川	4	4					8	1	1			2
15	県立神奈総	3	4				1	8	1	1			2
16	市立戸塚		3					3					0
17	市立金沢		4					4					0
18	市立南		3					3					0
19	私立富士見	2	4					6	1				1
20	私立捜真		3					3	1		1		2
21	私立法政女子	2	4		2		1	9	1	1			2
22	私立日本大学		1	1				2		1		1	2
	川崎地区												
23	県立多摩	1	4	1		1		7	1	1			2
24	県立新城	1						1	1				1
25	県立大師	1	2					3	1	1		1	3
26	市立川崎商業		1					1					0
27	私立法政第二	4	5	1	1	1	1	13	1	1	2	2	6
	横須賀・三浦地区												
28	県立茅ヶ崎						1	1					0
29	県立追浜		2			1	1	4	1	1		1	3
30	私立逗子開成		1					1		1			1
	湘南地区												
31	県立平塚江南	3	4		1		1	9		1	1	1	3
32	私立日本大学藤沢			1				1	1	1		2	4
	北相・西湘地区												
33	県立座間	2	5				1	8	1		2	2	5
34	県立海老名		2	1			1	4					0
35	県立大和東	4	3					7	1	1		1	3
36	県立有馬	2	1				1	4	1	1			2
37	県立大和西	3	4				1	8	1	1	1	1	4
38	県立相模田名	1	1				1	3	1	1			2
39	私立相模女子大学高等	1						1	1			1	2
40	私立淵野辺		3	1			1	5	1	1		1	3
41	私立東海大学附属相模						1	1				1	1
42	私立向上		3					3			1	1	3
43	県立小田原		1					1		1			1
44	県立足柄	2	2			1	1	6	1	1	1		3
45	私立相洋		5					5		1			1
	計	47	102	7	4	6	16	182	23	26	11	19	79

## 諸 注 意

1. 校舎・体育館は土足厳禁です。上履きを忘れた人は昇 降口でスリッパを購入してください。会場校のスリッパは使用しないでください。
2. 生徒控え室は南棟 1 年 1・2・3 組と第 3 第 4 演習室です。他の場所では飲食をしないでください。
3. ゴミは持ち帰りです。
4. 立入禁止区域には入らない、教室の私物には手を触れないなど、あらゆる点で会場校に迷惑をかけないように考えて行動してください。
5. 審査中は静かにしてください。特に会場内や廊下などは静かにしてください。会場の出入りは審査の合間に行ってください。
6. 作品・スクリプトの提出は当日の朝会場で行います。提出時間に遅れないように注意してください。
7. 発声練習は体育館の西側で行ってください。アナウンス・朗読の出場者は早めに各会場で待機してください。